

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第1回金谷区地域協議会検討部会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）リーダー、副リーダーの選出（公開）

（2）今後の進め方について（公開）

3 開催日時

令和3年9月17日（金） 午後6時30分から午後7時35分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 図書室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：村田敏昭（会長）、小林雅史、高橋誠、長和子、土屋博幸（欠席0人）

・事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、五十嵐主任

8 発言の内容

【堀川センター長】

金谷区地域協議会の自主的審議事項「金谷区の防災機能強化について」の具体的な取組内容を検討する検討部会に選抜された4人の委員の参加に感謝申し上げます。そして本日は、第1回目であるため、村田会長からもオブザーバーとして来ていただいている。

まず、この検討部会のリーダー、副リーダーを互選してほしい。リーダーの主な役割は、全体会である地域協議会に検討部会で協議した内容を報告すること。また検討部会の日程調整、事務局との連絡・相談役をお願いしたい。副リーダーはリーダーの補佐であり、リーダーの代務をお願いする。

リーダー、副リーダーについて協議願う。

— リーダー、副リーダーの選出 —

リーダー、副リーダーは各々の申し出により、小林委員がリーダー、土屋委員が副リーダーに決定。

— 今後の進め方について —

【堀川センター長】

資料「金谷区の防災機能強化に向けて」検討チームの進め方(案)に基づき説明。

以後は、小林リーダーのもとで、今後の進め方についてフリートークを行う。

<主な委員の発言(要旨)>

【小林リーダー】

前段階として、実績というか、モデル地区でも構わないが、具体的にこうやってきたとか、こういう意見が出たとか、こういう改善点が見えたとか、プロセスを一つ二つ踏まないとなんか変わらないと思う。そして、住民の意識向上には、訓練に尽きると思っている。

ただ、今までやってきた同じ訓練を繰り返しても多分あまり効果的ではなく、現状の訓練の中で、住民、防災士、皆さんが抱えている疑問や問題点、一步踏み出したいけどまだ踏み出せていない何かがあるとしたら、それを1回、みんなで話し合った上でより効果的な訓練とは何かという理想論を出した方が良いと思う。

そして、やってみたい訓練がイメージできた時に、モデル地区でそれを1回やれるならやってみて、その答えをもって、次、別の地域でやってみたいという地域が出てくるという展開になるのか。それが良かったから見習おうかということになるかもしれない。

資料の①の被害想定をどうするか。どのように地域住民を巻き込んで、意識を上げていくか。防災士とももちろん協議しないといけない。具体的な訓練をイメージ

する中で必然的に全部が関わってくると思う。そして実践ができれば、最終的にこの⑤番、⑥番が副産物として得られると考えている。

去年、長委員は地域協議会での議論に参加されていない。本日説明のあった資料の左側が委員から出た意見である。委員の皆さんが、本当に装備品は大丈夫だろうか、コロナになったけど避難所は安心なのかなど、いろいろな意見が出た。率直に、長委員が何か疑問とか不安とかがあれば話してもらいたい。

【長委員】

まず、金谷地区でどんな災害が起きるのかわからない。雨が多かったりするので、山崩れが起きたということも考えられる。その時にどこに行ったらいいのか。向橋に防災士がいるとか、そういった基本的なこともやっぱりわからない。そういう基本的なところから、住民の皆さんに周知していかないとわからないと思う。

私の町内だと県立高田商業高等学校が避難場所だが、向橋の本村の方から高校まで果たして行けるのかとか、公民館までしか行けないとか、そういった時の連絡手段とか、スマホでも充電が切れたら使えない場合もあるし、電気がいつ来るかもわからない。そういう基本的なところをどうしたらいいのか考えてしまう。

また、子どもたちによって学校単位で発表してもらおうとか、子どもが新聞作るとか、そういうことで住民が気にしてくれるのではないか。回覧版でもいいが、若い人は見ない。子供がいる家庭だとメールか、ラインが主になっている。そういった手段も考えてはどうか。

【小林リーダー】

ここは金谷区なので、金谷区というところにポイントを置いて、いかに地域の住民に周知徹底していくか、それも含めてどう意識を高めていくかではないか。

【長委員】

私もそこが一番大事だと思った。

【小林委員】

今まで、向橋は避難訓練をやっていたのか。

【長委員】

もしかしたらやっていたのかもしれないが、参加していなかった。

【高橋委員】

まず、考えたのは、各町内で全部と言えないが防災訓練をやっているの、その実態を把握するのが一番ではないか。

例えば、炊き出し訓練までやっているという町内もあるし、ただ、集まって避難所まで行くという町内もある。それから歩けない人のことを考え、タンカやリヤカーで運ぶ訓練をしている町内もある。その辺はまだ把握されてないと思う。そういうことをまず把握することだと思う。

このモデル地区の選定について、例えば、モデル地区は一つの町内を対象にするのか、複数の町内も対象にするのかによって、訓練の主眼が違うと思う。その辺を把握して回覧なり、告知をすることが必要ではないかと思う。

【小林リーダー】

各町内にやられている防災訓練のこと、困っていること、そういうことをアンケートした上で、今後、避難所を核とした町内の枠を超えた合同防災訓練を実施するところを情報収集して、そういったところがあれば、そこをモデル地区にすれば良いと思う。もしなかったら、来年予定されているエリアでお願いしてはどうか。

今は、避難訓練のやっているところの情報収集をした方がいいと思う。今年は多分、ほとんど訓練をやらないところが多いと思うので、コロナ前に遡って調査してはどうか。

【村田会長】

金谷区28町内会のうち、おそらく避難訓練をやっていない町内もある。

【小林リーダー】

逆にやってないところがあれば、そこと便乗してやりたいと思うかもしれない。

【村田会長】

今回のアンケートでは、差し支えない範囲で事情を聞いて情報収集をする。金谷区の現状を知ることは良いことである。

【小林リーダー】

避難訓練は、結局マニュアル通りというか、その決まりきったことをやるだけの訓練なのか、そういう成熟度を求めるだけのものなのか。それとも何か問題点を見

いだすとか、多分その訓練というのは、訓練のための訓練でしかなくて、何のための訓練というところを多分見失っているのではないかと思う。

【高橋委員】

ただ、防災士に言わせると訓練に勝る訓練はないということである。

【小林リーダー】

防災士が考えた訓練の目的・意義については、参加者に多分伝わっていないと思う。だからそのレベルに近づけることも意識の向上に繋がるだろう。だから、今やっていることが何のためになるのか、それを理解した参加者は、多分、自らの行動も若干変わると思われる。

もう一つ、大体、毎年決まった顔ぶれでしか参加してない。だからこちらに入居してきた若い人達を強制参加させるとか、そういう横の繋がりをつけさせるためのきっかけとなるような意味合いも持たせないといけない。いつもどおりの顔ぶれが、いつもどおりの参加で終わっているだけだと思う。

【高橋委員】

多分、それは一番難しい話だろう。要は、向こう3軒両隣というか、近所の人でも顔を知らない人が多い。それでも訓練に参加してくる方がいる。それで訓練をすると顔見知りになったり、そういうものがある程度解消できる。

最初にどういう訓練をしているか、どういう考え方でやっているのかなど、アンケートにより会の議論が前へ進むと思う。

【土屋副リーダー】

まずアンケートをとって、皆の意識がどこにあるのか。それを知っておくことが大事だと思う。

まず、避難所初動対応の市職員3人は避難所のすぐそばに住んでいれば、避難所にすぐにあつまれるが、実際はみんな遠いという話を聞いた。そうなると避難所はどうやって開けるのか。

【高橋委員】

それは、そこに関連する地域に住んでいる市職員が配置されていると思う。ただ、勤務先は全然違う13区になっていたりする。そして1年おきに変わる場合がある。

【土屋副リーダー】

大体こういう話は、職員の方が責任もってやっているということで、職員の間で訓練は何回もやっていると聞いている。

もう1点、私も中越地震の時に長岡に住んでいたのですが、その体験談の話だが、避難所に行って、避難所で指示をしてくれる人がいれば指示通り動ける。結局、町内会長がトップに立っているのか、防災士がトップに立っているのか、消防団の関係の人が立っているのか。上に立っている人が誰なのかわからないとどんなに人が集まっても、人の動きがなかなか一つになっていかない。これは私の心配である。住民が同じ心配を感じているのであれば、そこを解決していかないといけない。

【小林リーダー】

その話は、以前、市の担当課から話をきいた。

ただ実際にモデル地区が決まって、その避難所を核とした動きになった時には、その担当職員の顔も知りたいし、この人たちを中心にこの避難所を運営することになる。当然、その担当職員が市とこちらの連絡のトップになる。

その下に、その地域の防災士、そして町内会長がいて、地域の役員さんなどとなってくる。実際、その避難所を核として動くときには、例えばここだったら、関根学園に行く。また、学校側も当然無関係ではないので、会場を提供する側の方たちも含めて、連携を取っていきべきだと思う。

【堀川センター長】

ここの検討チームで考えてもらいたいのは、その職員の体制がどうかではなく、住民の皆さんの防災意識を高めることについてである。避難所の物資の件も含めて職員の体制の件は、前回までの地域協議会の議論で一応区切りを付けている。

モデル地区の避難訓練を見ながら、もっとこういうことがあったほうがいいのか、そういうことを検討しながら、地域協議会として提言していければと思っている。

【小林リーダー】

それは実施した後に、二次的に多分出てくる話である。地域の人が集まって住民の意識が上がった時に、物資が足りないとか、こんなスペースではやれないとか、二次三次の段階で出てくると思われる。ひとまずは、我々が何かきっかけを作るこ

とだと思う。

— 協議結果 —

○アンケートの内容

- ・市（市民安全課）のデータ（避難訓練実施の有無）を基に実際に訓練を実施した町内にアンケートする。
- ・あて先は、町内会長宛とする。
- ・内容は、コロナ禍以前にどのような訓練をしていたのか、避難場所、参加規模（人数）、訓練の目的（何の災害を想定しているか）、実施した内容など。文面は事務局に一任する。

○次回の地域協議会への報告事項

- ・避難訓練を実施した町内会長宛にアンケートを実施すること。
- ・アンケート項目を提示する。

○モデル地区選定

- ・アンケート実施後、回答内容を確認してから決定する。
- ・モデル地区は来年度に避難訓練を実施予定の町内会とする。
- ・単一町内でなく避難所を核にした地区を軸に選定する。
- ・防災士との話し合いは、モデル地区選定後に行う。

○検討チームの立場

- ・地域の避難訓練の現状把握のため、委員は訓練に参加する立場を基本とする。

○次回の検討部会

- ・アンケートの集計結果後に開催する。

【小林リーダー】

本日の協議の終了を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。